
大海賊時代を変える漂流者

漂流者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大海賊時代を変える漂流者

【Nコード】

N8086Y

【作者名】

漂流者

【あらすじ】

家で普通に暮らしていた主人公。だがある日冷蔵庫を開けたらグルグル模様の変なバナナを発見した。それを食べて何事も無かったと思いきや、次の日起きたら海の中に居た。上は青空。周りには海、海、海。島が無い為そのまま漂流されてしまう。「これからどうすれば良いんだよおお！！」by主人公

1 流れ着いた場所（前書き）

作者名については気にしないで下さい。

1 流れ着いた場所

カリカリ・・・ペラッ

ん？誰だ？俺は今、数学の勉強中だ。ちょっと待て。

く15分経過く

カリカリ・・・パターン。

ふう。宿題が終わったから良いぞ？

俺は、わたなべ渡部 そうた蒼太。中学三年だ。俺の両親は今両方とも出張中だから居ないけどな。料理とか家事は得意だから困る事は無い。金は置いてくれたし。家計も安定中。

で、今台所に居るのだが。これは・・・？

冷蔵庫に何故か買っていないグルグル模様のバナナを発見。これって、今世界中で大ヒットしている海洋冒険の「ONE PIECE」にある“悪魔の実”だよな？超似てるし。どうやって入れたんだ？まあ、それは良いとして後で食べてみれば良い。今はオムレツを作りたい。

ふう。できた。なんか変なメニューだな今日は。

オムレツにヨーグルトに悪魔の実らしき物。

誰から見ても変だと思われるな。特に一番最後のは。

「いただきます。」

その方向だから良いけど。マジでもの凄いスピードで流されてるう
ううー!!ぶつかるうううー!!!!

え!?!ちよつと待った!!あの船首は!!まさか!ルフィのじいち
ゃん?まさか!。そんな訳無い。

「あ・・・ぶつかるううううううー!!!!!!!!」

海兵「何事・・・ええ!?!漂流者!?!おい!浮き輪!」

海兵「おりゃあ!」

バチャ。

あ、浮き輪。これに掴まれて意味か。
ガシッ

海兵「手を離すなよ。引くから。」

「OK。」

海兵「よっ。」

どンドン軍艦に近づく。

海兵「よっと!」

海兵「大丈夫か?ほらタオル。」

「どうも。」

ああ。これが夢小説とかに出て来る“トリップ”ってやつか。なん
で俺がこんなのに体験してるんだよ。まあ、テストが今日だから良
かったけど。

ガ「なんじゃ？」

「あ、もしや。」

ガ「うん？」

「ルフィのじいちゃん？」

ガ「ルフィを知ってるのか！？」

「あ、まあ。」

海兵「“麦わら”のルフィですか？それくらい知ってますよ。億越
えルーキーなんですから。」

ガ「そうか。でお前さんは？」

「俺は渡部 蒼大。今から質問しても良いか？」

ガ「うん？いいぞ。」

「ここは何処だ？」

ガ「ここは海軍本部の近海じゃ。今帰るところじゃ。続きは着いた
らで良いかの？」

「分かった。」

着いた場所が軍艦かよ。夢であつて欲しい。

あと、これを考えたら、あの実は本当かもな。

1 流れ着いた場所（後書き）

感想など待ってます。

2 主人公設定

【名前】

わたなべ
渡部 蒼大 そつた

【性別】

男

【出身地】

東京都練馬区

【誕生日】

2月29日

【身長】

184cm

【部活】

水泳部

【能力】

自然系ウミウミの実。

何故か家にあつた悪魔の実を食べて能力者になった。
これを食べってから海人間となったが、カナズチにはならなかった。

【その他】

- ・ 自分で何かを作るのは得意。
- ・ 狙撃が得意。
- ・ 元の世界の技術はほとんど覚えていて造ることも可能。
- ・ 体質が他の人と違う。

主人公は海軍にも海賊にも政府にも革命軍にも入りません。

大体、革命軍 + 海軍 ÷ 2 〃 主人公が行っている事。

主人公は大海賊時代を終わらせる事を目標にしています。

2 主人公設定（後書き）

こんな感じの主人公。

3 事情聴取

「ある部屋」

??「私はボガードと言う。さっきの部隊の副官だ。」

「はあ。」

コンコンッ ガチャ。ゾロゾロ

・・・・・・・・・・・・・・・・

なんか海兵がゾロゾロ入って来るんだけど・・・。

あ・・・巨人族だー！

ガ「ふむ。全員集まったから初めていいぞ?」

初めて生で見たー！！でけー！

ボ「・・・・・・・・どうした?」

「あ、いや、なんでもないです。」

ボ「そうか。名前は?」

「渡部 蒼大」

ボ「渡部そ・・・?」

「蒼大」

ボ「変わった名前だな。」

「普通なんだけど。（違う世界だもんなー。）」

ボ「何処の海出身だ？」

「・・・・・・・・・・。」

ガ「どうした？」バリバリ

「煎餅食いながら喋んじゃねえ。」

ガ「口悪いのー。」

「悪かったな。今はちよつとな。」

ボ「（機嫌が悪いのか。）で、どこだ。」

「どこって何だよ。」

一応聞いてみる。

ボ「東の海・西の海・北の海・南の海・偉大なる航路の5つのうちどれかだ。」

ちよつとふざけてみよう！

「何それ。東シナ海？大西洋？南シナ海？北極海？後、偉大なる航路って何？」

ボ「貴様、ふざけてるのか？」

??「ちよつと待つて！」

セ「なんだ？日本研究班員。」

研「なんでその単語知ってるの？！」

「ごめん、ごめん。知ってるよ。でも、うーん。」

研「ええ！？スルー！？……後で聞きます。」

セ「分かった。」

ボ「何処だ。」

「うーん。東の海？」

ボ「なぜ疑問系？」

「いいから次！」

ボ「……年齢は？」

「14歳。」

ボ「何故漂流していた？」

「あ、ちよつと待った。さっきの質問やっぱり答えるよ。」

研「あ、はい。」

「自己紹介からするよ。」

ボ「ああ。」

「俺は渡部 蒼大。此処とは違う世界から来ました！俺が住んでた所は日本。日本の東京都練馬区に住んでいます。いつもは学校に通ってます。部活は水泳部。特技は狙撃と水泳と潜水？」

研「ええ？！日本から来たんですか！？」

「うん。だ……あ、あれって本物なの？」

研「え？」

「俺は昨日、冷蔵庫に悪魔の実らしき物があってそれを食べて寝て起きたら今の状況だから。」

研「……………嘘言ってますか？」

「俺、パソコンと携帯電話スマホと筆記用具とか持ってるぞ？」

ガラガラ。

不思議バツクからどんどん出てくる出てくる。

研「本物だあ。」

ボ「てことは、渡部は異世界から来た。で良いんですか？」

ガ「そうなるの。」ボリボリ

「・・・・・・・・・・・・・・・・ふ。」

ボ「ふ？」

「ふえつくし！・・・・・・・・うう。」

海兵「！？・・・・・・・・ビックリしたー。」

「ごめん。風邪が治ってきてるんだけどさ。」

海兵「治って来てるかよ。」

「ははは・・・・・・・・はあ。笑えねえ。」

ボ「・・・・・・・・日本について話してくれないか？」

「日本は47都道府県に分かれてる。あと、列島だから一応島国。先進国で治安は世界一。軍隊を持たないけど自衛隊がある。けど外国からは軍に見えてる。とか？」

研「ええ！？治安は世界一なんですか？！」

「うん。そんな感じ。」

ボ「そうか。」

ガ「センゴク！こいつを海兵にしたい！」

「子供か！？後、入隊しねーから！！！！！！」

ガ「なんでじゃー！」

「なんにも入らねーよ！でも情報通だから。」

ガ「じゃあ、海軍が世話するから情報くれよ！」

「OK！」

ここで世話になるのか。まあ、いいや。

3 事情聴取（後書き）

次回はこの続きです。まだ続きます。

4 能力発動

??「おれはオニゲモ。その悪魔の実の能力は分かるのか？」

「さあ？」

ガ「意識してみい。」

「ああ。」

目を瞑る。悪魔の実の能力を考えてみる。

ガ「しかし、おかしいと思わんか？」

オ「？」

ガ「漂流って事は、海水に浸かってるって事じゃろ？なんでカナズチではないんじゃない？」

セ「確かに。」

分かったぞ！海だ！よし、空間に水があることを思い浮かべて・・・

オ「何！？」

目を開けると・・・空間に水が。どうやら海水じゃなくても水であれば良いらしい。

モ「自然系ロギアか……。」

オ「ただの自然系では無いぞこれは。」

モ「ああ。」

「何かは、分かった。」

モ「なんだ？」

「自然系ウミウミの実。海人間だな。あー、俺動物系が良かったー
！！」

モ「良いじゃないのか？」

「まあ、多分体が海だから海水に浸かっても変わらないからだと思
う。でも良いか！」

モ「？」

「俺、水泳部だったからさ。潜水も目開けてもこれで大丈夫だあ！
よっしゃあー！」

ガ「ぶわっはっはっは！息も続くぞ！」

「よっしゃあー！」

海兵「さっきと全然機嫌が違う……。」

海兵「まあ、良いんじゃないの?」

海兵「なんでだよ。」

海兵「だって、俺ら海軍があの子の世話をするからよー、機嫌が悪くて能力でやられたらどうするんだよ。」

海兵「あー!そっか!」

海兵「だろ?」

海兵「ああ。」

ガ「ふむ、早速行くか!」

「・・・・・・何処に。」

ガ「鍛錬場じゃ!」

「・・・・・・!」

ガ「行k「明日にしてよ。今日は寝る。」・・・・。」

海兵「寝るのかよ!」

「h・・・・あ・・部屋どこだ・・・・?」

モ「・・・・付いて来い。」

「OK。」

ズーン

全員

「魂が抜ける」

才「苦手か？」

うん。

「モ、我慢しろ。」

諦めろって顔するなよ。

-
-
-
-
-
-

これはもう、諦めるしかないのか。

全員（（（（そんなに嫌なのか・・・。。））））

4 能力発動（後書き）

階段が苦手な主人公。

作者は逆です。東京タワーの階段を上りきった事が一回あります！

それでは、それでは。

5 背負う

あああああああああ．．．．．魂が抜けそう．．．。

モ「．．．．．」

オ「モモンガ、どうした？」

いきなりしゃがむモモンガ。

モ「背負ってやる。ほら、乗れ。」

「ふえ？」

いきなりだったから変な声が出てしまったではないか！このヤロ
く！

モ「背中に乗れ。」

え？それってつまり、俺をモモンガがおんぶするって事？まさかー！

モ「早くしろ。」

現実だったあああああ！！！！！！！！！

ドー「何固まってる。ほれ！」

どんっ！

「うわっ！」

モ「ふう。やっと乗ったか。すまないドーベルマン。」

ドー「お安い御用だ。」

「押すなよ！」

もっ、中將らは階段を上り始めてます。

ドー「乗らないからだろ。言ったら避けるだろ？」

「だって……よ。」

ドー「いいからそのまま背負われてろ。」

「うう……。」

うん？この髪長くない？

「てか、髪長いなー。」

モ「髪は大事にするもんだ。」

「切らないのか？」

モ「別にこのままで良い。」

「あーそう。・・・まだ？」

モ「少なくとも10分はな。」

あー、なんか眠くなってきた・・・。

モ「・・・・。蒼大？」

「ZZZZZZZZZZ」

オ「寝てるぞ。」

モ「寝てるのか。」

ドー「モモンガの肩を枕にして髪を布団代わりか？」

ダ「そうだな。暖かそうだ。」

モ「羨ましいと思うなら今度頼んだら良いだろ。」

ダ「髪が長くないから無理だ。」

モ「人獣型になれば良いだろ。」

ダ「そうか。」

モ「部屋に連れて行くか。」

ダ「モモンガの部屋で良いだろ。」

モ「いや、それは駄目だ。」

ドー「まあ、蒼大は大事にしないと。」

モ「そうだな。」

スト「……………」

ドー「なんか喋ったらどうだ。蒼大もそう言ってたぞ。」

スト「……………喋る事が無いから喋っていない。」

オ「……………もっと明るくなれよ。」

モ「一番地味では?」

オ「そうだな。」

スト「酷いな。」

オ「お前キャラ変えろ。」

スト「無理だ」

オ「あつぞ。」

モ「着いたか。」

オ「蒼大は俺らと同じ階なんだな。」

ガチャ

モ「蒼大の世話は中将以下が担当だ。」

オ「だからってな。同じくらいの部屋だよな。」

ドー「だな。」

モ「手伝ってくれ。」

オ「ダルメシアンは足を持て。靴も脱がせておけ。」

ドー「ダルメシアン、お前意外と器用なんだな。」

ダ「うるさい。」

と言つて靴を脱がす。

モ「ここだな。同じ造りだな」

ガチャ

寝室を開けるモモンガ。

中将らは蒼大をベットに寝かせて布団を掛けた。そして、部屋から

出て各自の部屋に向かう。

ちなみに、この階の部屋は巨人族以外の中将のみしか居ない。だが
ガープとつるは上の階に居る。この階の造りは、

資料室 休憩場所

空き部屋

↓

カイゼルヒゲ オニグモ ヤマカジ ストロベリ

上下階段

雑談・色々部屋

コーミル ドーベルマン 蒼大 ダルメシアン
モモンガ

こうなっている。

蒼大は完璧に守られている。

ジョナサンは拒否している（と言う設定）為造られていないです。

5 背負う（後書き）

図が少しずれてますが、ぴったりくっつける事ができないのでご了承ください。

6 海賊の唄

中将らが蒼大の部屋から出てから2時間後。

「ん？どこ？あ、紙だ。」

えーと？

ここは蒼大の部屋だ。ここの部屋は自由に使うと良い。

中将一同

・・・・・・・・・・・・・・・・。ああ！！そうだった！モモン
ガがおんぶしてくれてたんだ！！ああ、ありがたやー！！・・・って、
どっかのおばさんか！！

一人漫才ってつまんねー。てか、俺、漫才の才能ねえし。

なんか歌おうかな。あ、窓開いてる。

ヒョコッ

「うつひょー！！綺麗だなー！！」

海が綺麗。

ドーベルマン side

蒼大を寝かしてから2時間が経った。

「あいつまだ起きないのか？そろそろ起きてもいいと思うのだが。
あと、何でお前らが此处に集まる。」

モ「いいだろうが。蒼大の部屋にも近いし。」

「そうだな。」

ガラガラ。

すると窓の扉を開ける音が。此处は開けてるから隣だろう。

オ「蒼大か？」

モ「そうだな。」

蒼「うつひょー！！綺麗だなー！！」

モ「完全に起きたな。」

オ「やっとか。」

蒼大、遅すぎだ。

ドーベルマン side out

蒼大 Side

「あ、でも大砲が邪魔だな。コレ。良い景色なのに。」

あー！ピンクスの酒歌おう！

「ヨホホホヨホホホヨホホホヨホホホ」

あ、モモンガ達が隣に居るみたい。でも気にせずに歌うもんねーだ！

モ「ヨホホホ？」

「ヨホホホヨホホホヨホホホヨホホホ」

オ「なんだそれ。」

「ピンクスの酒を届けにゆくよ 海風気まかせ波まかせ」

ドー「ピンクス？」

カ「の酒？」

オ「旨いのか？」

モ「知らん。」

「潮の向こうで夕日も騒ぐ 空にや輪を描く鳥の唄」

オ「??」

「さよなら港 つむぎの里よ ドンと一丁唄おゝ船出の唄」

モ「これって……。」

「金波銀波もしぶきに変えて おれ達やゆくぞ 海の限り」

なんか俺の声、島に響いてる気がする。

海兵「これって、蒼大の？」

海兵「それしかないだろ。」

「ビンクスの酒を 届けにゆくよ」

ドー「知ってるぞ。海賊の唄だ。」

オ「はあ？そんな訳……」

「我ら海賊 海割ってく」

オ「……………」

ドー「だろ？」

「波を枕に　ねぐらは船よ　帆に旗に蹴立てるはドクロ」

モ「それにしても何故、この唄を？」

「嵐が来たぞ　千里の空に」

ドー「さあな。」

「波がおどるよドラム鳴らせ」

カ「あいつ、海軍側だろ？」

「おくびよう風に吹かれちゃ最後　明日の、朝日ないじゃなし」

モ「蒼大^{アイツ}の事は、」

「ヨホホホヨホホホ　ヨホホホヨホホホ」

モ「よく分らない。」

「ヨホホホヨホホホ　ヨホホホヨホホホ」

ドー「まあ、確かに。」

「ビンクスの酒を届けにゆくよ　今日か明日かと宵の夢」

オ「例えば、」

「やべー。でも良いか。」

モ「おい！どうした！」

ん？

オ「良くねえ！」

「うおお！！なんだよ！びっくりした！」

オ「・・・・すまん；」

「いやー、こちらこそ。」

うん、大体、海軍本部で歌うのが悪いんだよ。でも、気にしな―い！

俺、ある意味問題児かもな。

6 海賊の唄（後書き）

海軍本部で海賊の唄を歌っちゃいました^^

7 新たな能力発見

「あ、そういえば今は原作の何処ら辺かな？でも一億超えてるってことは・・・」

コンコンッ

「どうぞ。」

ガチャ

「ルフィ達がアラバスタから出たって事で、エースにも会ったのか。」

モ「・・・麦わら？」

「確か、次は・・・えーと・・・。」

モ「ルルカ島だ。」

「違うよ、ファイアーワークスだよ。・・・って、誰・・・あ。さっきはどうも。」

オ「ファイアーワークス？」

「花火が有名な島。」

ド「麦わらの情報が結構あるみたいだな。」

「まあ、大丈夫だよ。」

ドー「何故だ。」

「え？だって・・・次の次の次の次に・・・」

オ「何回言った？」

スト「六回」

「居たの！？」

オ「居ても存在感無いからな。」

スト「みなさん酷いですよ。」

「まあ、ナバロンに着くからさ。」

モ「でもな、ナバロンって。」

オ「海賊があそこに行くか？」

「上から落ちてくるから無理でしょ」

ドー「上からって・・・。」

突っ込むな！！それ以上は教えない！！

「まあ、大丈夫だよ。」

モ「まあ、良い。蒼大、日用品はどうするんだ？」

「あ、大丈夫だよ。」

モ「そうか。」

「うん。届いた。」

モ「は？」

どどどどどどどど

いつの間にか部屋にはダンボールだらけ。

モ「いつの間に……。」

オ「三次元は「いや、多分それ違うよ。」??」

「此処に来たからじゃない？」

オ「知らん。」

「だよな。……。」

スト「無口になるな。」

「お前だけには言われたくない台詞言われた……!?!」

スト「蒼大、お前私の事をどう見てる。」

「えー、無口で地味で何故か笑顔の人？」

ドー「まあ、確かに。」

オ「俺もそんな感じだ。」

モ「普通に考えてもそんな感じだろ。」

カ「うんうん。」

スト「そんなに……。」

オ「やっぱり、キャラ変えろ！」

スト「無理です。部下が引きます。」

「ははは……でも少しくらい喋れば良いのに。」

スト「……………」

「今喋れよ！！俺らしか居ないのに！！」

スト「いや、居る。」

『クーー！！』

「ニュース・クー！本当に居るんだなー！」

てか、カモメが居るだけで無口になるか？

『クー！（タダで良いよ！）』

「え？マジ！？」

『クー？（言葉解るの？）』

「うん。今気づいたよ。」

『クーー（あ、これ。）』

「Thanks!」

『クー（これが仕事だからね。）』

「あ、そうだったね。」

『クー（うん。）』

「あ、鰯いる？」

『クー？（鰯？）』

「うん。ほいつ！」

パクッ

『クー！（美味しい！）』

「えへへっ。俺の故郷に居る魚の一部だよ。」

ク？（明日も来て良い？）

「いいよ。」

「クウーーーー！！！！（じゃあ、また明日！）」
「バサッ」

海兵達「「「「会話してたあああああああ！！！！」」」」

[illegible]

「後者、無言!？」

海兵達「「「「そこ! ?」」」」

「……なんか解っちゃった。」
（汗）

海兵達「『『『ええええええええええ！！！！！！！』」

「てか、なんで居るの？」

海兵「あ、唄聴いて確かめる為に。」

「あ、俺だよ。」

海兵「やつぱり。」

新たな能力発見。

（今、ニユース・クーと喋ってたよな。）

（三次元の能力じゃね？）

（研究員に聞いてみるか？）

（そうだな。）

（何だ今のは。）

（知らん。）

（あいつも分からないって顔してるぞ。）

（しばらく置いておくか。）

（それしかないだろ。）

7 新たな能力発見（後書き）

最後、ちよつと書き方変えてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8086y/>

大海賊時代を変える漂流者

2011年11月27日12時55分発行